

薬品 栄養素の相互作用についての臨床検討材料は引き続き増えるであろう。

1996/11 Vol.5, No.4

今世紀、人類の若死に予防、幼児の死亡率が世界で低下し、その結果開発途上国の男性の平均寿命は20年伸び、開発国では10年伸びている。人類の寿命が延びているのは既に承知のとおりだが、関節炎、成人の糖尿病の発生は引き続き増えている。慢性病が増えるにつれ、治療の為に長期に渡って使用する薬品との戦いも増加している。既に知られているように、薬品と栄養素(食品、飲料、栄養サプリメント)に付いての相互作用が浮かび上がってくる。数多くの栄養素と薬品が相互作用し合うことが出来る。色々な方法で慢性病をコントロールし、健康を保つ事が出来るはずである。栄養素は最新の薬品治療に大きな影響を及ぼすと言っていいと思う。その事は動物にも言える事である。Dr.ロバート・コフィイはおおよそ20%の家畜が予防注射をしても免疫を作る事が出来ない事を発見した。その理由は銅、亜鉛、マグネシウム、アミノ酸キレートが不足していたからである。それらの家畜に銅、亜鉛、マグネシウム、アミノ酸キレートを与えてから予防注射すると免疫ができるのである。栄養たっぷりの家畜は特定の病気に直面した時に病気にかかりにくく、病気にかかっても軽くて済み、薬も良く効くという事が判明した。このような報告で薬品治療と栄養素がお互いに非常な影響がある事が推測される。これらの薬品と栄養素との相互作用は今後、益々大きな可能性を持つであろう。

Forty Year Trends In Mortality			
Life Expectancy in Years			
	1950-55	1970-75	1990-95
China	40.8	63.2	70.9
India	38.7	50.3	60.4
Africa	37.7	45.9	54.1
All less developed areas	42.2	55.2	63.3
United Kingdom	69.2	72.0	76.1
United States	69.0	71.3	76.4

Former Soviet Union	64.1	68.6	71.3
All more developed areas	66.0	71.1	74.9
World Average	47.5	58.5	65.5
Peto,R. Nature Vol356-16 April,1992 pp557-558			

薬品と栄養素は多様な方法で影響し合える

薬品と栄養素の関係は薬学、生理学、病理学上栄養素と薬品の結果から明確にわかる。

これは栄養素の個々の性格を利用し、意図して投薬を減らし急性、慢性の薬毒を少なくする時には重要な事である。薬品は色々な栄養素の自然の性質を低下させ、人体の薬に対する反応に深い影響を与える。薬品は栄養素の性質に色々な面で影響を与える。

薬品が影響するものに

1. 食欲を高揚させる為に、栄養素をもっと取り入れる事が出来る。
2. 食欲を押さえる為に栄養素の取り入れが少なくなる。
3. 炭水化物の新陳代謝に影響し
 - a: 低血糖に関係してくる。
 - b: 高血糖に関係してくる。
4. 脂質の新陳代謝を著しく変えるため、血清中の脂質の増加、及び減少
5. 蛋白質の同化作用、又は異化作用が出てくる
6. 吸収力に作用するため、内腔と粘膜組織を変化させ植物栄養素の栄養新陳代謝と酵素消化、不溶解性と不吸収性複合に影響する。

それに加え、ある種の栄養素は薬品治療に悪影響を及ぼす事が知らされている。

最近の

Journal of American Dietetic Association 95(3):309-315 March of 1995 の調査によると、

3つの病院の患者を6ヶ月に渡って薬品と栄養素について照査した。これらの患者は色々な慢性病の治療を受けていた。患者は平均4~5種類を投薬されていた。複数の薬を与えられていた患者は薬品と栄養素の相互作用の著しいリスクを負っていた事が研究の結果判明した。最も一般的なものは患者の胃腸内で薬品-栄養素、ミネ

ラルの吸収に影響するという事であった。数種の薬品を使用した長期治療では薬品-栄養素関係の色々な害が出ていた。1995年4月版 American Family Physician, Dr. ジュリアン・カークの著書 “Significant Drug-Nutrient Interaction”によると ある種の栄養素は非常に深刻な影響を薬品治療に及ぼす事があると言っている。ある種の植物栄養素を取った時に薬品の吸収率が80%から40%まで下がる事が判明している。多くの薬品は血液中の薬品濃度の効き目を限定してしまうという事である。植物栄養素を少なくすると薬品治療の効果を減少させるのはもちろんである。カルシウムや鉄分とある種の薬品は吸収を妨げたり、薬品の働きを無効にしたりするような関係を作ってしまうというような深刻な報告もなされている。

栄養素の相互関係はキレートミネラルがその答えとなる

ミネラルと薬品の相互関係についての多くの研究でミネラルは薬品と一緒にになると反対の働きをしてしまう事が発見されている。ほとんどのミネラルは胃腸の中でイオン化した形になってしまう。イオン化したミネラルのみが胃腸の中でマイナス的な働きをする事を指摘しなければならない。アルビオンのアミノ酸キレートは中性のものである。胃腸の中でイオン化されないので他のミネラルが起こすような問題を抱えてない。

様々なミネラルが正しくキレート化されたアルビオンのアミノ酸キレートミネラルは常に腸内を一定した pH に保つ事が発見されている。この事は更にアルビオンのキレートミネラルが消化器官という環境においてもキレート化が壊されてない事を証明されているのである。

鉄分サプリメント:薬品の相互作用の一般的な原因

ノーマン・キャンベルとブライアン・ハシノフ

(Br.J.Clin.Pharmac.1991,31,pp251-255)の記事によると鉄分-薬品の起こりうる相互関係には再検討する必要は大きなものと記されている。それによると、全ての多価ミネラルは薬品治療と同じようなマイナス影響の傾向があり、鉄分はミネラルの中でも最もよく研究されている。そのレポートによると臨床検査、鉄分-薬品の相互作用は多くの人の多量で多種の薬品で行われた。イオン化塩(第一鉄硫酸塩、グルコル酸塩、フマル酸塩とそれに類似したもの)と一緒に摂取してもらった結果、色々な薬の効き目は減退した。この鉄分-薬品の組み合わせを摂取した結果、イオン化したミネラルがある種の薬品分子構造の効き目をなくしてしまう事が判明した。イオン化したミネラルが固く結び合う薬品は、石炭酸、カルテノール、カルボキシル、アミン、メルカトプ基グループである。図2は鉄分と強く結合すると知られているものや予想されるものの一部である。

さらに、イオン化された鉄分の色々な薬品との合成力は触媒酸化をおこし、効き目の減少を起こすため、多くの薬品の効用に必要な吸収力を破壊してしまう。ほとんどの薬品は2つの有機化合物を持っている。鉄分の配列が6であるので、6つの有機物質が結合するという計算になる。1つのグラム分子は最低3つの薬品のグラム分子と結びつく。

高い鉄分-薬品の安定は吸収性が高まるので少ない薬品で済み、鉄分-薬品の問題がより少なくて済む。ほとんどの場合、鉄分-薬品合成の形は吸収性を減少させるばかりか薬品の効き目を減少させている。鉄分の値が高いと全体に影響する値は大きくなる。鉄分と薬品を取るタイミングは非常に大切である。色々な薬品を摂取した3時間前と2時間後に薬品と陽イオン鉄との反作用が見られた事は重要な事である。多くの鉄分治療方法として多種の量を取る事を必要とされているが、腸内の口腔で薬品のマイナス作用を分けることは不可能である。鉄陽イオンについての研究で薬の効き目は50%から高いものでは80%もイオン化された鉄分によって減少させられている。

全て陽イオンの形を取ったミネラルは鉄分と同じ働きをしてしまう。イオン化されたカルシウムは多くの抗生物質の効き目を減少させる事で知られている。銅と亜鉛は鉄分と同じくたくさんの薬品の効き目を無駄にしている。R.E Polkの研究(Antimicrob. Chemmber, 33,1989)によると投与されたサプリメントに亜鉛、銅が入っていると抗生物質の効き目は24%落ちるという結果が出た。必要とされるミネラルがイオン化した製品であった場合、腸内のRDAのレベルはどうであろうか？

ここに記載されたミネラル陽イオン-薬品の相互作用の臨床については既に話した通りである。研究者達は以上のような過程から多くの人々は不的確な治療を受けていると感じている。

Table 2	
Ionic Iron Interactions	
A partial list of orally administered drugs which bind with iron:	A partial list of orally administered drugs which have the potential to bind strongly to iron based on binding with copper or an functional groups present:
<ul style="list-style-type: none"> · Levodopa Acetaminophen · Methyl dopa · Ampicillin · Minoxidil · Captopril · Nalidixic Acid · Carbidopa · Ciprofloxacin · Norfloxacin 	<ul style="list-style-type: none"> · Antazoline · Bephenium 17-Ethinylestradiol · Furosemide Chlorpheniramine · Hexylresorcinol

・Ethambutol	・	・Cyclosporins	・Methotrexate
・Folic Acid	Penicillamine	・Dicumarol	・Oxazepam
・Indomethacin	・Rifampicin	・Digoxin	・Pheniramine
・Isoprenaline	・	・	・Tonzyamine
・Salicylates	Tetracycline	Diethylstilbestrol	
	・Thyroxin	・	
		Diphenhydramine	

最後に

アルビオンでは薬を摂取する時に注意しなければならない事をよく認識している。薬品と栄養素とのマイナス効果はすでにはっきりと示されている通りである。特に薬品治療時のミネラルイオンのマイナス効果ははっきりと示されている。薬を取る時は製造会社の注意に従う事は非常に大切である。サプリメントと薬を同時に取る時、ミネラルはキレートされたミネラルを使用する事が賢明と言えよう。しかし、医師と相談するのが望ましい。